

VRを使った失禁体験装置、経産省から特別賞もらう 「宇宙旅行に役立ちそう」と可能性も評価

YAHOO! ニュース
JAPAN

ねとらぼ 11/7(月) 16:05 配信



「Human」分野で特別賞を受賞した失禁体験装置（画像はエントリーページより）

電気通信大学の「失禁研究会」が開発した「失禁体験装置」が、経済産業省のイベント「Innovative Technologies2016」で特別賞を受賞しました。

【画像：失禁 VR についての講評】

腹巻き型や椅子型のデバイス、ネッククッションで、膀胱の圧迫や排尿の暖かさ、体温低下など失禁時に起こる現象を再現する VR 装置。当初は「若い人たちにも老人体験をしてほしい」という思いの下、学園祭に向けて小規模に開発されました。

その後「教育や医療現場などにも応用できるのでは」との声を受けて本格的に始動し、IVRC（国際学生対抗 VR コンテスト）に出展した結果総合 3 位に。ニコニコ超会議 2016 でも実演デモが行われ、再現性が高いと注目を集めていました。

イベントは同省が優れたコンテンツ技術の発掘・評価を目的に開催したもの。選考委は「宇宙空間では排尿すら大変な作業。VR 元年ならぬ宇宙旅行元年にはこうした体験が、訓練にも必要となるのではないかと、装置の実用性を評価しています。

（沓澤真二）

失禁研究会の研究が経済産業省より InnovativeTechnologies2016

受賞技術に採択、また特別賞を受賞

2016年11月07日

ロボメカ工房 VR 部隊の失禁研究会（亀岡嵩幸さん（先進理工学科3年）、浅井晴貴さん（先端工学基礎課程3年）、宮上昌大さん（先端工学基礎課程3年）、高木省吾さん（情報理工学域Ⅰ類）、荒生太一さん（情報理工学域Ⅰ類）、市川裕駿さん（情報理工学域Ⅱ類））が開発した「失禁体験装置」が、優れた技術として経済産業省 Innovative Technologies 2016 受賞技術に採択されました。

また、同イベントにおいて特に優れた技術として特別賞である「human 賞」を受賞しました。Innovative Technologies は経済産業省が、コンテンツ技術イノベーション促進事業の一環として、日本の優れたコンテンツ技術の発掘・評価を目的に実施するものです。企業や大学研究機関等からの応募・推薦総数 80 件から、産業界及び学术界のコンテンツ技術の専門家による審査委員会での厳正な審査を経て、20 件の優れたコンテンツ技術が採択されました。採択技術はデジタルコンテンツ EXPO2016 の会場にて展示されました。



(新しいウィンドウが開きます) ↓

